



けいはんな 最先端

「こんにちは。私があな
たのお相手をするわ」
スクリーンに映し出された
魅惑的なミューズ（女神）
が、語りかけてきた。
「あなたはだれ？ わたし
ではないあなた。あのひとで
もないあなた…」
ミューズは、ささやくよう
に谷川俊太郎さんの『あなた
』という詩の朗読を始め
る。

「わたしとおなじような
みをおもち」
生みの親である土佐尚子さ
んがマイクを握って、朗
読を続けると、

「わたしとはちがうおとを
きくひと」
と、ミューズは返す。

関西文化学術研究都市にあ
るATR知能映像通信研究所
（京都府精華町）。映像作家

でもある客員研究員の土佐
さんたちは、「インタラクティ
ブ・ポエム」の研究を進めて
いる。

人間が詩の上の句を告げる
と、コンピューターが下の句
を返すという、コンピューター
版の連歌だ。

ミューズは、声の抑揚や高
低、強弱などから、相手の感
情を推論。さらに、現在は谷
川さんの作品に限られるが、
詩の内容を認識することもで
きる。

「これまで情報通信の研究
では音声や文字のような論理
的な情報ばかり重視してきた
が、コミュニケーションには、
感情や感性のような非論
理的な情報のやり取りも重要

なです」と、同研究所の中
津良平社長が説明する。

コンピューターと人間の対
話。この技術を発展させれ
ば、視聴者自身が主人公にな
って自由にストーリーを変え
られる映画「インタラクティ
ブ・ムービー」も可能になる
という。

◇
京都、大阪、奈良の三府県
にまたがる関西文化学術研究
都市（けいはんな）。そこで
行われている最先端の研究を
紹介する。

文・竹田 徹
写真・奥 清博

コンピューター連歌

感情を理解し対話

夕刊

平成9年(1997)日刊19733号

9/9 [火]

産業経済新聞(サンケイ)
THE SANKEI SHIMBUN
発行所 ©産業経済新聞大阪本社 1997
〒530-77 大阪市北区梅田2-4-9
大阪(06)343-1221(大代表)

関西
経済